

2026年度

推薦総合選抜 A日程入学試験問題

(11月16日)

社 会 科 学 部
看 護 学 部
人 間 科 学 部
農 学 部
外 国 語 学 部
アニメーション学部

小 論 文

受験する学部・学科・専攻の課題を必ず選択のこと。

人間科学部人間科学科は、専攻により課題が異なるので注意すること。
別紙解答用紙に記入すること。

試験開始の指示があるまで開かないこと。

配 当 時 間 60分

このページには問題はありません

このページには問題はありません

このページには問題はありません

このページには問題はありません

このページには問題はありません

このページには問題はありません

このページには問題はありません

このページには問題はありません

次の文章は有機農業とその利点・課題について記述された文章です。本文章を読み、有機農業の拡大を推進するにはどうすれば良いのか、自分の考えを自由に記述しなさい。

— 別紙に六〇〇字以内で述べなさい —

有機農業は、環境保全や持続可能な生産を目指した農業の形態であり、自然との共生を重視した農法である。この農法は、化学肥料や農薬の使用を抑え、自然の循環や生態系を活用することで、健康的で安全な農産物を生産することを目的としている。

「有機農業推進法」において、有機農業は「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。」と定義されている。

有機農業の利点は、大きく分けて環境面と社会面の2つに分けることができる。環境面では、有機物を活用することで土壌が豊かになり、長期的な農地利用が可能になる。また、化学肥料や農薬が使用されないため、地下水や河川への汚染が減少し、農地周辺の自然環境が保たれることで、生態系全体のバランスが維持される。社会面では、化学物質が含まれない安全な食品を消費者に提供できる。さらに、有機農業は生き物調査などを通して、自然への理解を深める教育的な側面も持っている。

一方で、有機農業にはいくつかの課題も存在する。化学肥料や農薬を使用しないため、生産性が慣行農業に比べて低い場合があり、また、有機資材の調達や管理には手間がかかる。そのため、収益性に問題が発生する場合がある。一部では「有機農産物＝高価」というイメージが浸透しており、このギャップを埋める努力が必要である。耕作者においては、害虫や病気への対策が限定的であるため、高度な知識と経験が求められる。さらに、有機農産物として販売するためには厳格な認証プロセスが必要で、この認証取得には時間と費用がかかるため、小規模な耕作者には負担となる場合がある。

日本では、有機JAS制度 (Japanese Agricultural Standard) が導入されており、有機農産物の生産・流通・販売に関する基準が定められており、政府や自治体による支援策や啓発活動が進められている。しかし、有機農地の割合は全体の1%未満と低い水準にあり、欧米諸国と比較すると普及率は高いとは言えない状況である。今後、有機農業を広げるにはさらなる取り組みが必要である。

【用語説明】

有機農業推進法：平成18年に制定された法律で、有機農業の推進に関する基本理念を定め、国及び地方公共団体の責任を明らかにすることを目的とした法律。

有機JAS制度：化学合成された農薬や肥料、組み換え遺伝子に由来する農業資材などを使わずに作られた農産物や、それらを原材料として作られた加工食品について、その作りかたや輸入のシステムが確かなものであることを法律に基づいて証明する制度。

このページには問題はありません

このページには問題はありません

このページには問題はありません